

理事挨拶

横溝 英明

日本原子力研究開発機構 理事



本日は、先端基礎研究センター設立20周年記念シンポジウムに多数ご出席を賜り、心より御礼申し上げます。先端基礎研究センターはお陰様で本年20周年を迎えることができました。これもひとえに、今日までの発展に至る間の関係者皆様方のお力添え、ご指導、ご鞭撻の賜物と、厚く感謝申し上げます。

ここで、現在の日本原子力研究開発機構の前身である日本原子力研究所（原研）の20年前当時の状況に少し触れますと、原研は、我が国の中核的な原子力総合研究開発機関として、国の政策の下、その研究開発の重要なツールである研究炉、加速器、各種放射線照射施設等を設置してきました。この間、核物理、物性物理や原子炉化学などの分野も地道に研究を進め、基礎研究分野に関する十分な素地を構築しました。しかしながら、1980年代前後、このような基礎研究は、核融合、高温ガス炉、SPRING-8といった大型プロジェクトの陰に埋没しがちになっておりました。この事態を打開すべく、基礎科学研究の強化に向けての議論が巻き起こり、原子力分野に密接な基礎科学研究を強く推進するための積極的な提案を行ってきました。

そのような動きの中で、総理府に設置された科学技術会議の答申を受けて、有馬朗人氏を委員長とする原研基礎研究推進委員会が組織され、原研における基礎科学研究はより強く推進されることとなりました。そしてこの委員会の提言に従い、1993年4月、世界の基礎研究を牽引すべき組織として先端基礎研究センターが発足しました。

先端基礎研究センターは、原子力分野における新たな原理・現象の発見、新材料の創成、革新的技術の開発だけでなく、その周辺の研究分野においても先駆者であることが期待されました。これは、先端原子力科学における基礎科学研究の国際的中核拠点（COE）となることが強く求められたわけであり、この期待に応えるべく様々な努力を進めて参りました。

例として挙げますと、まず、歴代のセンター長には、顕著な研究業績と国際的に強いリーダーシップをもった著名な研究者を任命し、当該センター長の裁量のもと、最先端のテーマを選定し卓越した成果をあげるべく取り組んでいただきました。さらに、COEの構築に向け、研究交流の促進や客員研究員の招聘を図りながら、他の研究機関との連携を強く推奨してきました。また、5年毎に選定される各研究テーマは、国内外の専門家からなる研究評価委員会により厳正に審査されてきました。

このような独自の戦略により、先端基礎研究センターは原研を代表する組織として、その存在を確立してきたわけです。

ここで、歴代のセンター長についてご紹介させていただきたいと思えます。

初代センター長は、伊達宗行先生にお願いし、センターの基盤を構築いただきました。特に、先生の着想により発足した公募型の黎明研究制度は、原子力科学及び周辺の様々な関連分野における最先端で未開拓な研究の芽を育てることを目的として進められています。

第2代センター長には安岡弘志先生をお迎えしました。海外から著名な研究者をグループリーダーに登用し、国際的なシンポジウム等を企画開催するなど、センターの国際化への道筋を築いていただきました。

第3代センター長にお迎えした篠野嘉彦先生は、研究者の人材育成についての重要性を謳われ、先生が取組まれた茨城大学との教育プログラムは現在も受け継がれています。

これらの運営の結果、先端基礎研究センターからは、現在も関連分野で活躍する多くの研究者が輩出されています。すばらしい手腕でセンターをリードしてくださった歴代センター長に対し、ここにあらためて敬意を表します。

現在は第4代目となる前川禎通センター長を迎え、世界トップクラスの競争力に対抗できる研究組織としてセンターを牽引していただいています。外国の著名な研究者を研究評価委員、アドバイザーならびにグループリーダーに任用し、黎明研究制度を国際公募に発展させるなど、組織と運営に関する新たな取り組みがなされています。センターの発展には「競争」と「協調」によって機関の垣根を越えた相互作用が重要であり、そのため世界規模での研究交流が推し進められています。そしてこれらの取り組みにより、この短期間に素晴らしい成果があがっています。そのうちの代表的なものについて、後ほどの口頭発表と、展示パネルにてご覧いただければと思います。

昨年は東日本大震災とそれに伴う福島第一原発の事故という未曾有の災害をうけ、世間から原子力に対する逆風が強く吹いている状況にあります。しかし、こういう時だからこそ長期的展望をもった原子力基礎研究の重要性を訴えるべきであると考えます。設立時の精神を忘れずに、引き続き原子力にかかわる基礎研究の発展に尽力していただきたいと願っています。

最後になりますが、ご出席の皆様方には、先端基礎研究センターの発展に多大な貢献をいただいていることに厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。挨拶とさせていただきます。